

買い物難民の交通の確保を

岡沢 清 議員

質問 現代社会はまさに車社会であり、本村でも高齢者をはじめ「買い物難民」と言われる村民から、買い物に不便であり「何とかしてほしい」という声が寄せられています。茨城県生活行動調査によりますと、美浦村では、食料品・日用品以外の買い物について、他市町村に依存せざるを得ない状況が示されています。デマンドタクシーの利用範囲の拡充を求める要望が以前にもありましたが、村独自で判断、実施できない状況があるの承知しており、デマンドタクシー以外に考えられる手段を講ずるようお願いいたします。

答弁（保健福祉部長） 本村の交通事情について、現在、

土浦・江戸崎間のJRバスのほかに、村内にタクシー営業所がいくつかあります。しかし、便数の関係、自宅からバス停までの距離など、利用者にとっては大変不便な面がありました。このため、デマンド交通事業を4年前から実施してきていて、通院から買い物、公共施設への移動など、幅広く利用されています。しかし、村内限定の事業ですが、阿見町へは医大の運行という例外もございます。本村でも商工会への助成、地域サポートクーポン券事業に対する助成など、商業振興の支援を行っていることから、村が村外への買い物をするための交通手段の確保という検討自体、十分な整合性のもと検討が必要と考えていま

す。また、買い物難民への対策につきましては、福祉の観点による交通弱者的な対応というよりは、むしろ商業振興活用による対応といった側面もあると思います。そういった意味で、庁内関係課、それから商工会等との連携の中での検討も視野に入れていきたいと考えております。

答弁（村長） 4年前に何が一番有効に村民の足としてできるかということ、デマンドということを始めました。自治体の中だけで、本当は美浦村から出られないんです。ところが、美浦村では買い物ということではなく、利用者の約4割ぐらいが阿見の医大へ行って、いるという調査がありました。そのうえで、阿見町に公共交通会議に入っていたかどうかとしましたが、阿見のタクシー会社の反対があつてできませんでした。医大の要請があつて、美浦

村だけ特別に認可をいただいたという経緯があります。確かに買い物難民、また目的の地が乗る方によつていろいろ違いますから、タクシーの初乗り料金（の補助）も含めてやっているところはありますけれども、村内の商業者を育てなければならぬ部分もあり、よそに買い物に行くのにお金を出しながらということになると、地元はどうでもいいのかという問題も出てきますので、慎重にやつていかないと。

美浦村から阿見町へ行ったときに、阿見町のデマンドも使えるようになれば、ある程度できるのかな。そして拡大解釈すれば、陸運事務所の規制を変えていくことが課題になります。村としては、今のデマンド交通を村だけじゃなく、隣接する自治体のデマンドと競合して、お互いに乗り入れることを模索していくことを、今、阿見町に申し入れていきます。